

第 209 回 東京都中央区の茂出木心護像と古河市兵衛像

筆者：林 久治（記載：2022 年 11 月 14 日）

（1）前書き

私（筆者の林）は [Random Walks（乱歩）](#) という題名で [偏屈老人（林久治）の気促な紀行文](#) のサイトを始めている。私の紀行文では、通常の紀行文にはない、斜め目線からのご紹介を書くことに拘りたいと思います。通常の紀行文に関しては、既に優れたサイトが沢山ありますので、それらをも引用しつつ、ユニークなご紹介を記載することに心掛ける所存です。

一方、私は日本の銅像探偵団 ([1\) のサイト/](#)) の銅像探索に参加している。私は珍しい銅像を探して、探偵団の団長さんに「ギャフン！」と仰っていただけることを目標としている。ここで「珍しい」とは、「①見つけ難い場所に隠れている有名人の銅像。②市井で頑張って人生を過ごしたが、有名人ではない人物の銅像」と言う意味である。私は自宅が東京にあり、孫達が大阪にいたので、主として東京近郊と近畿地方で銅像探索を行っている。最近、私はネット記事を丹念に調査し、そのような「スクープ銅像」の候補を多数見つけている。

武漢肺炎による自粛生活で家に籠っていると、運動不足で体重が増加するし、精神的にも圧迫を感じる。私の銅像探索は不要不急の活動ではなく、私の生存に必要な不可欠である。昨年の末には感染者数が激減し、「これで流行は終息か？」と期待していた。所が、本年になって第 6 波が到来してしまった。2 月 3 日には、日本全国の新規感染者数は、過去最高の 104,334 名に達した。しかし、これをピークとして新規感染者数は徐々に減少して、6 月 23 日には 16,670 名にまで減少した。

私は第 4 回目の予防接種を 7 月 8 日に受けることが出来た。そこで、私は 7 月 16 日からの連休後に大阪に行って、孫達と遊ぶことを計画した。しかし、6 月末から第 7 波が到来して、新規感染者数が急激に増加し始めたので、残念ながら私は大阪行きを中止した次第である。その間、新規感染者数は急激に増加し、8 月 3 日には過去最高の 249,789 名にまで達した。これは、当日の世界最高値であった。

東京地方の猛暑は例年以上で、7 月初旬から最高気温は連日 35℃以上であった。従って、第 7 波と猛暑のため、私は銅像探索をしばらく自粛していた。しかし、8 月 4 日から 6 日までは大変涼しくなったので、6 日には東京でも銅像探索を再開した。9 月初旬、私共は大阪に滞在し、近畿の銅像を探索した。東京に帰ってから、運動を兼ねて銅像探索を続けている。私の銅像探索記の全ては、[2\) のサイト/f](#) から閲覧出来ます。

私は 11 月 4 日に、南千住駅前の松尾芭蕉像と浅草の新川柳作像を探索した。浅草から日本橋に廻って、「凧の博物館」の茂出木心護像も探索しようと思った。私の地図にある「凧の博物館」の場所に行ってみると、その一帯は再開発中で地面が掘り返されていた。

帰宅後、ネット検索を行うと、本館は別の場所（日本橋三越の近く）に移転していることが分かった。そこで、11 月 11 日に本館を訪問し、茂出木像を探索した。本像は、[1\) のサイト/](#)には収録されていない。本像の探索後、私は近くにある古河市兵衛像も探索した。古河像は [1\) のサイト/](#)には収録されているが、基本情報が記載されていないので本像も探索した。本稿はこれらの探索記である。本稿では私の意見などを **青文字** で、資料の内容などを **緑文字** で記載する。

(2) 東京都中央区日本橋の茂出木心護像



図1. 東京都中央区日本橋界隈の地図、本図は、[3\)](#)のサイト/4より借用。

①：日本橋、②：三越、③：たいめいけん、④：風の博物館、⑤：古河市兵衛像。

東京都中央区日本橋界隈の地図を図1に示す。11月11日、私は地下鉄東西線の日本橋駅から日本橋（図1の①）に行った。日本橋から向かって左側に三越（図1の②）があり、右側に「たいめいけん」（図1の③）と「風の博物館」（図1の④）があった。次ページの図2上に「たいめいけん」の写真を、図2下に「風の博物館」写真を示す。本館は「室町NSビル」（東京都中央区日本橋室町1丁目8-3）の2階にあった。

（本文は、4ページに続く。）



図2. 上：「たいめいけん」(図1の③)、下：「風の博物館」(図1の④)。

まずは、茂出木氏が創業した「たいめいけん」を簡単に紹介しよう。ウィキペディア（「たいめいけん」と「茂出木心護」）や[4\) のサイト/1](#)には、次のように書かれている。

茂出木心護（もでぎ・しんご、1911年3月28日 - 1978年6月1日）は東京の生まれ。本名は眞太郎。家業が傾いたため、明治学院中等部を中退。1927年に現在の東京都の京橋にあった「西支御料理処 泰明軒」（大旦那は畑安之助）にて修業。1931年、「泰明軒」の屋号をもらい、東京都中央区新川に店舗を出し独立した。1948年、中央区日本橋に移転し「泰明軒」から「たいめいけん」と改める。1969年、自身の趣味が高じて「日本の凧の会」を設立。現在は会員数1300人を超える大きな団体になった。1977年、「凧の博物館」を創立。1978年、茂出木心護が永眠し、長男の茂出木雅章（1939-）が代表に就任。また、孫の茂出木浩司（1967-）は、都内各所に「洋食や 三代目 たいめいけん」という姉妹店舗を開店させるなど事業を拡大させている。2020年10月19日、「たいめいけんビル」が地区再開発により取り壊されることに伴い、本店が一時閉店。また、「凧の博物館」も一時閉館。2021年4月29日、日本橋室町の新店舗にて営業再開。

「凧の博物館」に入ると、フロア全体に多くの凧が展示されており、入口には1基の胸像が凧を持っていた。その写真を図3に示す。見物客は、私だけであった。受付のおばさんに入場料（220円）を支払い、「館内の写真撮影は構いませんか？」と尋ねると、OKの返事であった。それで、銅像撮影を遠慮なく行うことが出来た。図書館、美術館、博物館などでは、「撮影禁止」の所が多く、カメラを構えると係員が血相を変えて飛んでくる事が少なくない。貴重な展示品だからこそ、本館のように撮影自由にすべきである、と私は常々考えている。



図3. 「凧の博物館」の内部

図4上には茂出木心護像を、図4下には本像台座正面に貼られたプレートを示す。上部のプレートには「おやじさんの像 凧の博物館創設者 茂出木心護」、下部のには「昭和五十八年五月二十八日 日本の凧の会 有志 寄贈 製作 矢貫伸」と書かれていた。

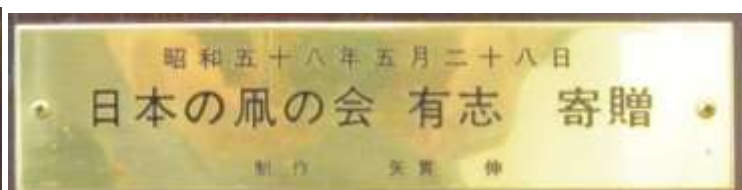


図4. 上：茂出木心護、下左：本像の題字、下右：本像台座正面下部のプレート。

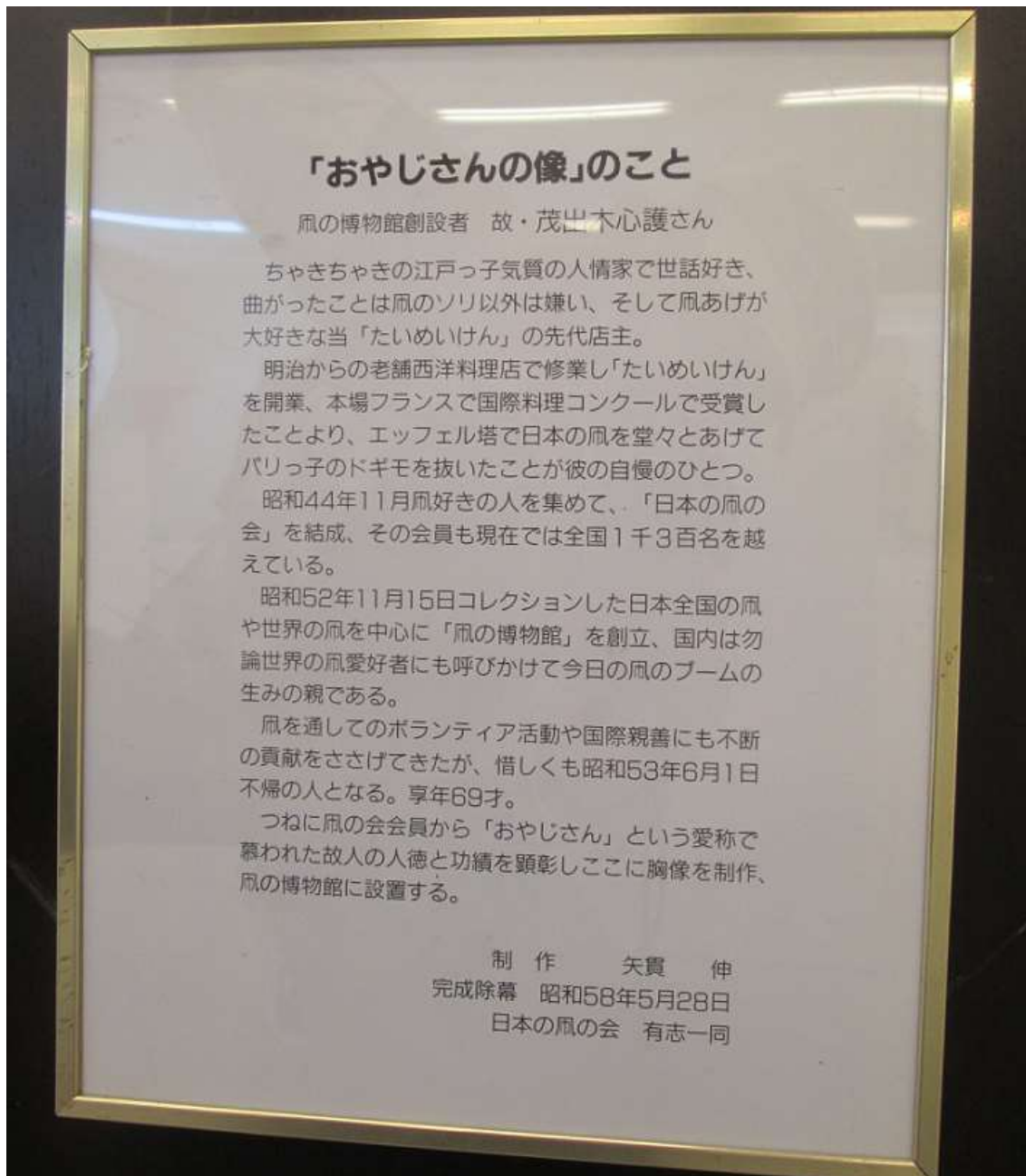


図5. 本像台座正面に掲げられた「趣意書」

なお、本像制作者の略歴は[5\) のサイト/2](#)に、次のように書かれている。

矢貫伸は、東京学芸大学教育学部美術・書道講座、芸術・スポーツ科学系、美術・書道講座 教授。1973年、東京芸術大学美術学部彫刻科を卒業。1975年、東京芸術大学美術研究科彫刻科を終了。学位は芸術学修士。1983年、「故・茂出木心護氏の像」を制作。

以上の資料などにより、茂出木像の概要は次の通りである。

茂出木心護胸像

設置場所：東京都中央区日本橋室町1-8-3 室町NSビル2階 風の博物館内

制作者：矢貫 伸（1975年東京芸術大学 美術研究科 彫刻 芸術学修士、東京学芸大学教授）

除幕日：1983年5月28日

寄贈者；日本の風の会 有志一同

設置経緯：茂出木心護（もでぎ・しんご、1911年3月28日 - 1978年6月1日）は東京都芝区三田（現：港区三田）出身。本名は、茂出木 眞太郎。現在も続く東京・日本橋にある西洋料理の「老舗・たいめいけん」の創業者として知られる。本像の趣意書は次の通りである。

「おやじさんの像」のこと

風の博物館創設者の故・茂出木心護さんは、ちゃきちゃきの江戸っ子気質の人情家で世話好き、曲がったことは風のソリ以外は嫌い、そして風あげが大好きな当「たいめんけん」の先代店主。明治からの老舗西洋料理店で修業し「たいめんけん」を開業、エッフェル塔で日本の風を堂々とあげてパリっ子のドギモを抜いたことが彼の自慢のひとつ。

昭和44年11月風好きの人を集めて、「日本の風の会」を結成、その会員も現在では全国1千3百名を超えている。昭和52年11月15日コレクションした日本全国の風や世界の風を中心に「風の博物館」を創立、国内は勿論世界の愛好家にも呼びかけて今日風のブームの生みの親である。

風を通じてのボランティア活動や国際親善にも不断の貢献をささげてきたが、惜しくも昭和53年6月1日不帰の人となる。享年69才。つねに風の会員から「おやじさん」という愛称で慕われた故人の人徳と功績を顕彰しここに胸像を制作、風の博物館に設置する。

制作 矢貫 伸

完成除幕 昭和58年5月28日

日本の風の会 有志一同

（3）日本橋室町の古河市兵衛像

古河市兵衛像が中央区の室町コレド2（東京都中央区日本橋室町2-3-1、図1の⑤）にあることは、[1\)のサイト/](#)には収録されている。しかし、本像の基本情報が全く記載されていないので、今回ついでに探索することとした。[6\)のサイト/1](#)によれば、「室町古河三井ビルディング（COREDO 室町2）」の概要は次の通りである。

室町古河三井ビルディングは、古河機械金属、三井不動産、にんべん、日物、細井化学工業などが東京都中央区日本橋室町2丁目に新設した地上22階、地下4階、高さ116.05m、延べ面積約62,470㎡の複合ビルです。地下1階～地上6階が商業施設「COREDO 室町2」で、日本橋初のシネコン「TOHO シネマズ日本橋」も入居。7～17階がオフィス、18～21階が賃貸住宅「パークアクシスプレミア日本橋室町」（54戸）です。2014年2月1日に竣工し、「COREDO 室町2」は2014年3月20日にオープンしました。

次ページの図6上に、「COREDO 室町2」の一角とその前に設置された古河像を示す。図6下には、古河像の近接写真を示す。台座正面には「古河市兵衛之像」と彫られていた。本像背面や台座には、その他の情報（制作者名、建立日など）は全く記載されていなかった。

（本文は、9ページに続く。）



図6. 上：「COREDO 室町2」の一角と
その前に設置された古河像、
下：古河像の近接写真。



図6上に示すように、古河像の横には1基の石碑があった。その写真を図7にしめす。本碑には、次のように書かれていた。

古河市兵衛翁は天保三年（一八三二年）京都岡崎で生まれる行商から身を興し明治八年鉾山経営に着手 その強靱な気根と不撓の行動力により幾多の困難を乗り越え「鉾山王」とよばれる 足尾銅山の発展を基盤として多角経営に進出 これが今日における古河グループ発展の基礎となるこの地は翁が明治十年住居兼古河本店としその後二十年間事業の拠点とした発祥の地である 平成二十六年一月

なお、古河市兵衛氏の誕生は1832年4月16日で、死亡は1903年4月5日である。

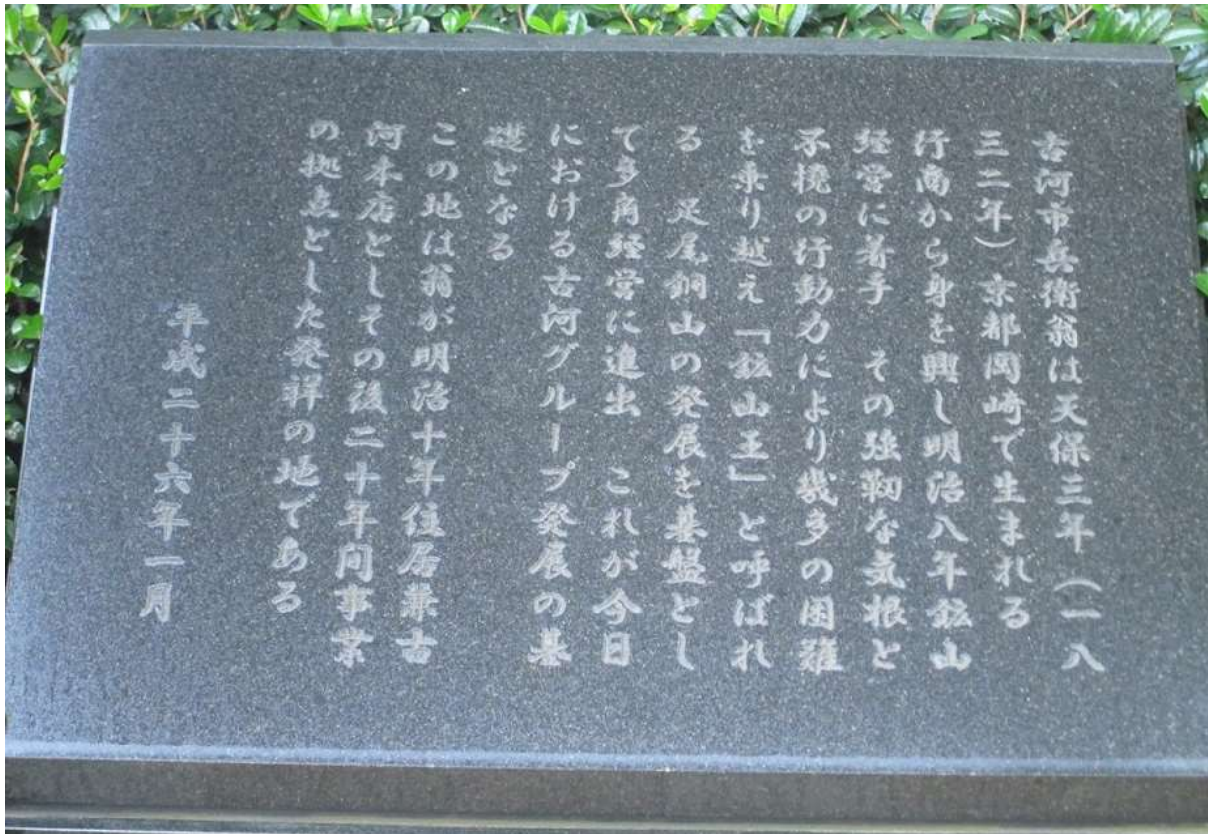


図7. 古河像の横に設置された石碑

古河機械金属株式会社のHP ([7\)のサイト/](#))には、次のように書かれている。

「室町古河三井ビルディング」の通りの北側に、当社創業者古河市兵衛の銅像が設置されています。日本橋室町は、1877（明治10）年に古河市兵衛が本店事務所を開設したいわば当社発祥の地で、1897（明治30）年に丸の内に移転されるまで本拠地としていました。本店移転後は私邸となっていました。1917（大正6）年に古河銀行を設立した際、この地を銀行本店としました。その後、1959（昭和34）年には旧古河ビルを建設、そしてこの度（2014年）の再開発計画により新ビルが誕生しました。

なお、古河市兵衛氏の経歴は、ウィキペディアや[8\)のサイト/1](#)に詳しく記載されている。また、東京都北区西ヶ原に旧古河庭園があり、現在は都立公園となっている。本園については、ウィキペディアに次のように書かれている。

本園は、1919年に古河財閥の古河虎之助男爵（3代当主）の邸宅として現在の形（洋館、西洋庭園、日本庭園）に整えられた。1947年、西ヶ原邸は財産税などの物納で国有財産と

なる。現在は、東京都が借り受けて一般公開している。国の名勝に指定されている。東京のバラの名所として親しまれている。

以上の資料などにより、古河像の概要は次の通りである。

古河市兵衛翁之像

設置場所：東京都中央区日本橋室町 2-3-1 コレド室町 2 前庭

制作者：不明

設置：2014 年 1 月

設置経緯：本像脇の碑文には、以下の通り書かれている。

古河市兵衛翁は天保三年（一八三二年）京都岡崎で生まれる行商から身を興し明治八年鉾山経営に着手 その強靱な気根と不撓の行動力により幾多の困難を乗り越え「鉾山王」とよばれる 足尾銅山の発展を基盤として多角経営に進出 これが今日における古河グループ発展の基礎となるこの地は翁が明治十年住居兼古河本店としその後二十年間事業の拠点とした発祥の地である

平成二十六年一月

[8\) のサイト/1](#)によれば、古河市兵衛氏は没落した庄屋の家に生まれ、幼少の頃は家業の豆腐の行商や丁稚奉公で生活費を稼いでいた。紆余曲折の後、鉾山業を始め、古河家を日本第五の財閥まで発展させた。その結果、古河家 3 代目は西ヶ原に豪壮な邸宅を構えるまでになった。しかし、その間には無理な経営を行い、足尾銅山では鉾毒問題が発生。日本の代表的な鉾山公害として、歴史に名を刻むこととなった。つまり、古河財閥の発展は、国土の大規模な破壊と、住民の悲惨な被害を犠牲にして達成されたのである。

一方、茂出木心護氏の場合は、市兵衛と同様に実家が没落したので、中学を中退し老舗洋食屋の泰明軒に丁稚奉公に入った。その後、心護は泰明軒の暖簾を継承することとなった。心護の場合は、趣味の凧でも同好会を結成し、「凧の博物館」を創立して庶民の文化を守ってきた。市兵衛と心護とは出発点は類似しているが、一方は国家的犯罪人となり、他方は善良な「おやじさん」となった。正に、人生様々である。

(4) ゼブラ本社の石川徳松像

[9\) のサイト/2](#)には、「ゼブラ本社（新宿区東五軒町 2 番 9 号）に創業者・石川徳松氏の銅像がある」との記事があった。その写真を、[図 8](#)に示す。



図 8. ゼブラ本社の石川徳松像、
本図は、[9\) のサイト/2](#)より借用。

本像は1)のサイト/には収録されていない。そこで、私は茂出木像の探索の前に、地下鉄東西線「神楽坂駅」で下車し、当社に行ってみた。当社ビルの写真を図9上に示す。なお、本ビル前の坂は「相生坂」と呼ばれている。



図9. 上：ゼブラ本社ビルと相生坂、下：相生坂の案内板。

ゼブラ本社ビルの玄関に入ると、受付の前に石川徳松像があった。受付に人が居なかったため、私は玄関に居た社員らしい女性に、「銅像を撮影してもいいですか？」と尋ねてみた。彼女が事務室に電話をすると、総務課の男性が現れた。彼からは「銅像は社内用ですので、外部の方の撮影はだめです」と断られた。私は「ゼブラは消費者相手の会社なので、撮影は大丈夫であろう」と思っていたので、彼の素気ない態度に非常に落胆した次第である。

参考資料

- 1) のサイト : <https://douzou.guidebook.jp/>
- 2) のサイト : <http://masaniwa.web.fc2.com/Ranpo.pdf>
- 3) のサイト : <https://mapfan.com/spots/SCQ5C,0JD,4>
- 4) のサイト : <https://taimeiken.co.jp/yomoyama/index.html>
- 5) のサイト : <https://researchmap.jp/read0008772>
- 6) のサイト : <https://skyskysky.net/construction/201422.html>
- 7) のサイト : <https://www.furukawakk.co.jp/business/realestate/>
- 8) のサイト : <https://sengoku-his.com/1111>
- 9) のサイト : <https://twitter.com/suraripen/status/1496678789644173312>